消化不良症に對する家庭に於ける手當

依田春子

秋は種々の果實や茸類の多く出る時でありまして、從つて病原菌の發生が速かで御座います故に、幼兒は殊更病氣に罹り易い時で御座います。消化不良、腸胃カタル等につきて御家庭に於て醫師をお迎えになる迄の手當法に就いて申し上げ度いと存じます。

先づ其の主なる原因として、兒童に於きましては過度の不消化性食餌の攝取、食物が體内には入りましてからの化學的變化、分解、自家中毒（毒性產物の吸收）、殊に榮養物の發酵（乳酸、醋酸、牛酪酸）の作用は、本症に最大の起因をなし、殊に腺病性の幼兒は本病の素因に富んで居ります。

幼兒に於きましては、不良及び未熟の果物等の攝取、暴飲暴食、腹部の寒冷、及び蛔蟲（寄生蟲）の發生に起因いたします。

秋は食物の腐敗し易き時、殊に牛乳は最も注意を要します。

症候といたしましては、顏面蒼白となり、食慾に乏しく、嘔吐を來します、此の嘔吐は、食後十五分乃至三十分にして、胃中の食物は半ば變化せず、半ば粗大にして凝固し、酸臭或は腐敗臭を帶びたる、消化困難性の、嘔吐を來します。腹部は腸瓦斯の集積によりて多少膨隆し、疝痛所謂「シャク」の如き痛を訴え、放屁多く、而も消化困難症の排便があります、時としては又壓迫樣の痛みを覺え、往々蠕動行進をみとめ、糞便は多量に排泄いたします。

胃性消化不良とは、胃を多くおかされた場合を申まして、下痢數は比較的少なく、二十四時間中多くも五回を越えません、そして粘液或は白片を混じます、嘔吐は數多く、胃部に鈍痛を覺え又胃痙攣を起すことあります。

腸性消化不良とは、腸を多くおかされた場合を申しまして、下痢の數は多く、嘔吐は稀で、時としては、全くない時もあります、下腹部に疝痛を訴えまして、下痢は二十四時間中に、十五回乃至二十回位

ありまして、初め酸臭又いアンモニアの如き惡い臭氣を持つ水樣便を洩します。疝痛發作に惱む時は、腹部を堅くして、苦悶狀態になります。

此の胃性消化不良も、腸性消化不良も共に、進みますと、食思は全くなくなりまして、口內に惡臭を生じたり、舌苔（舌に白い苔の樣なものを生じます）の生ずることがあり、不機嫌にして、氣力衰へ、嘔吐、頭痛、發熱、腹部の疝痛、又極く輕く一寸腹部に觸れた丈けでも痛みを訴えます。又急劇に高熱を發して、手足は冷え、高熱の爲にウワゴトを發し、下痢の數多ければ、時としては虛脫に陷ります。

手當法といたしましては、この症狀に、少しでも氣付きましたらまづ第一に時を移さず。

ヒマシ油を與えます、この時間の遲速は、本症に於て、豫後に多大の關係がありまして、時としては到底見込みのない重症者に在つても、此のヒマシ油を、早く與へた爲に、危い生命を取り止めた實驗は澤山に御座いますと伺ひます。

分量は年齡によりて多少異りますが、五歲より十歲までの子供は、八瓦乃至十五瓦を與えます、此のヒマシ油は、油狀をなして非常に飲み難いもので御座いますが、成る可く飲み易い樣に工夫して、この大切なお藥を、働かさなければなりません、此の用法は、種々御座いますが、オブラートを浸しまして藥を少々入れ、小さな玉となして幾度にも與えます之を手早くいたしませんと、流れ出る恐が御座います、熟練を要します。それよりか、藥の中に、單舍利別を藥の量の、三分の一位混じてよく振盪して與えます。之は簡單でもあり且つ割合に飲み易くなります、又出來得れば、グリスリン灌腸をいたします分量は二十瓦乃至二十五瓦位に、等分の水を加え、靜かに之を行ひます。

食物は特に注意して嚴重に制限いたさねばなりません。重湯、葛湯の薄きものを體溫の溫かさにして淡い味を付けて與えます。口渴を訴えます場合は、番茶或はリモナーデを與えます、嚴禁すべきは、牛乳と玉子、濃厚のスープ等で御座います。

熱に對する處置といたしましては、額に、冰囊を當てます、熱の低い時は濡らした手拭でも間に合ひます、部屋の溫度は、寒くない樣に心懸け、冬季でも六十度以下に下らぬ樣に注意いたしまして、直接臥牀に風の當らぬやうに致します。

四肢の冷えたる時は、湯婆を入れて溫めます、此の時は直接に當てゝ、火傷を起さない樣にしなければなりません、脈搏の多い時は心臟部に冰囊を當てます。次には嘔吐につきて申上ます。食物の爲に、急性中毒を起した場合の嘔吐は、自然的の療法ですから、胃の內容物は皆出してしまつた方がよろしい此の性質の嘔吐は、溫湯や番茶を多量に飲ませますと、胃洗滌の代用となりますが、嘔吐の數が多い時は、疲勞の爲に衰弱を來して苦しみます。嘔吐を止めます手當としては胃部に冰囊を當て、又冰片を少量與えます、そして絕對に安靜を保たしめる樣に注意しなければなりません。そして心氣を一轉させることも大切でございます。嘔吐をいたします時は、頭を橫に向けて頭をさゝえ、靜かに背部を擦り、幾分なりとも其の苦痛を輕減する事に努めます。頭を上に向けて置きますと吐物が氣道に入りまして苦む恐れがあります。嘔吐後は淸水で含嗽を致ます。

下痢は其の數が度重なりますと、疲勞衰弱いたしますから、成るべく安靜にして排便の仕末をいたします(差込便器の使用を必要と思ひます。)又溫き臥牀に寢かせて四肢の冷えぬやうに注意し殊に腹部は溫濕布を當てます。下痢の爲疲勞衰弱して腦貧血を起した場合は、頭を稍低くして、赤酒(藥用赤酒又は葡萄酒)等の興奮劑を與えます。意識を失ひたる場合は顏面胸部に霧を吹きかけ四肢を毛布などにて摩擦し、刺戟を與えます。斯る場合は、意識が恢復してから、興奮劑を與えます。吐物及び排便は、醫師の來診あるまで其儘にして置きます、又病氣の傳播せぬ爲蠅の止らぬ樣注意致ます。それから今一つ御注意申上げ度いことは滋養を取る目的で、幼兒にお刺身、牛乳、玉子等を食べさせる方を多く見受けますが、之は健康兒は兎も角も胃腸の働きの衰えて居る恢復期等に於ては、體內に這入つてから、腐敗し易く反て體に害を及ぼします。

スープは鰹節スープ、野菜スープが最よく淡白に味を附けます。油の浮いた鳥肉スープはいけません。恢復期の主食は、澱粉質を主とし重湯、おまじり、お粥の順に進ませ、副食物は、白身の魚肉を最上とします。之を煮又よく中迄蒸し追々消化力が增すに從ひ、燒いた物を與えます、野菜は馬鈴薯、菠薐草の類から與えます何れも裏濾しにした方が輕く、消化し易くて安心で御座います。